

消防団長
防犯隊・交通指導隊 両隊長
本年の誓いのことば



市消防団
工藤十九団長

昨年は一昨年と比較して、市内火災発生件数が増加した。改めて防火についての啓発活動の重要性を認識し、さらなる火災予防広報を強化していかなければならない。我々市消防団は、地域防災の要として、自らの地域は自ら守る、郷土愛の精神と相互扶助結の心で、あらゆる災害から市民の安心と安全を守るため、一丸となり防火・防災に向けて努力精進することを誓う。



市防犯隊 舘柳勝彦隊長
市交通指導隊 高橋忠一隊長

近年の犯罪・少年補導に係る内容は、多様化、複雑化している。関係機関とより一層の連携を図り、地域安全と青少年健全育成に努めなければならない。

また、高齢者が関わる特殊詐欺や交通事故が市内でも多発しており、安全対策や事故防止の啓発活動は急務である。

両隊員一同、市民の皆さんが安全で安心して暮らしているまちづくり活動に努めることを誓う。(両隊代表舘柳隊長)

今年も、八幡平市消防団、防犯隊、交通指導隊の活動がスタートした。
平成29年市消防出初式は1月3日、市役所本庁舎前で市消防団(工藤十九団長)団員400人、市婦人消防協力隊隊員(津志田レ子隊長)100人が参加し、盛大に挙行された。

式では市、市議会などの関係者約50人と一般観客が見守る中、参加者全員と消防車両40台が約500人を力強く分列行進し、威風堂々とした姿を披露。その後、統監の田村正彦市長や市議会議員などが観閲を行い、団員らは服装、姿勢などの点検を受けた。

工藤団長は「火災をはじめ、各種災害から地域住民の尊い生命、財産を守るため、我々消防団は、訓練に励み、研鑽して技術の習得に努め、消防防災の任にあたっていかなければならない」と訓示し、団員を鼓舞した。参加者は万歳三唱し、地域防災の強化を

誓った。
1月15日には、市防犯隊(舘柳勝彦隊長)・交通指導隊(高橋忠一隊長)の合同初点検が市役所で行われた。当日は両隊の隊員、防犯、交通安全関係者ら約80人が出席。田村市長は「市内は国内外からの観光客が多く、今後

も増加が見込まれる。それに伴う犯罪や事故防止に、より一層皆さんの力が必要。活躍を期待する」と両隊員を激励した。その後、服装や手帳、警笛などの装備品の点検が行われた。
また、両隊を代表して市防犯隊の舘柳隊長は、昨年中市内で3件の交通事故死亡事故が発生し、尊い人命が失われたことに触れ「地域安全対策や交通事故防止の啓発活動に更に努めていかなければならない」と隊員の士気を高めた。
市消防団、防犯隊、交通指導隊、ともに安全・安心のまちづくりに向けて、気を引き締め決意を新たにした。

- 1_地域防災に向け決意新たに万歳三唱(消防出初式)
- 2_田村市長らから観閲を受ける防犯隊・交通指導隊
- 3_防犯隊・交通指導隊装備(手帳)の点検



八幡平市消防団 防犯隊・交通指導隊 2017年 始動

市消防団



おらほの オーディナリー・ヒーロー

オーディナリー(Ordinary)とは、英語で“普通の”や“当たり前な”を表す語。



市防犯隊

私たちの日常の背景にある、当たり前を当たり前にする日々の努力・活動。それは決して目立つものではないが、まちを暮らしを守ろう、つくろうという使命感にあふれている。その責務を全うすべく、郷土愛からくる使命に日々向き合う八幡平市消防団・防犯隊・交通指導隊。彼らは紛れもなく、安心安全なまちを築く陰の立役者だ。



市交通指導隊

No.260 ©2017.2.9

02

「人とのつながりを大切に
当たり前の無事故を守る」



市交通指導隊隊員
田中耕一さん(55)=小福田=
自営業

同隊の先輩からの勧めで入隊し、16年目になります。市内保育所(園)、小中学校の交通安全教室の実施や、毎月定期的に高齢者宅、市内飲食店などの訪問、イベント時に交通事故防止を呼び掛けることが主な活動です。

また、毎朝街頭で子どもたちの交通指導を行うのが日課。日々、子どもたちの成長を感じたり、地域の人との触れ合いや交流があり、そういった人と人とのつながりの中で活動できることが楽しみとなっています。

無事故は、日常生活の中で当たり前のこと。本業をしながらの活動は大変ですが、自分が動くことでイベントが何事もなく成功することや、子どもたちが安全に登校できることがやりがいに。高齢者世帯の増加に伴い、年々事故発生率の高まりが課題の一つですが、活動通じて1件でも多く抑制していきたいです。

事故は、余裕がないときに起こるものです。余裕があれば助けることもできます。隊員として、余裕を持った行動をとる、そしてその大切さを呼び掛けることで、まちの当たり前の無事故を守っていききたいです。



信号待ち時間の子どもたちとおしゃべりは楽しみの一つ

「周囲に目を配る意識を大事に
自ら動くという使命感をもって」



市防犯隊隊員
岩館栄信さん(62)=柏台三丁目=
無職

防犯隊員として活動を開始したのは、旧松尾村時代の平成10年。消防団にも入団しており、当時の団の先輩に勧められて、地域のためになるならと入隊しました。

主な活動内容は、月1～2回の定期と春秋にある防犯週間中のパトロールです。松尾地区内を1回当たり約2時間かけて行います。また、市内イベント時の会場内巡回も我々の役割です。

活動を継続していくうちに、防犯灯が故障していないかや危険物が路上に落ちていないかなど、日頃地域内、周囲に目を気を配ることに意識できるようになりました。“オレオレ詐欺”など地域で被害の話が出た時は、警察に情報提供を行うなど、被害拡大防止のつなぎ役としても防犯隊は努めます。

地域のことは自分たちでやらなければいけないという使命感を持ち、犯罪による被害を抑制できるよう、これからも日々小さいことからコツコツと継続していきます。後継者不足が悩みですが、微力でもまちのためにできる限り活動していきたいです。



同隊の畑猛さん(写真奥)と一緒に夜間パトロールに精を出します

「活動を通じて仲間と味わう充実感
地域住民との関係性密に動きたい」



市消防団第29分団団員
北館雅樹さん(41)=畑2区=
団体職員

消防団に入団したのは平成11年。今年で18年目になります。祖父や当時の団長からの勧めがあり参加を決意しました。入団当初はあまり魅力を感じていませんでしたが、日頃の訓練の成果を発表する操法訓練大会に参加したことを機に消防団活動の奥深さを知り、面白く感じるようになりました。

年間を通しての主な活動は、夜間の火災予防パトロールです。冬期は特に火の取り扱いが多くなるため、重点的に動き回ります。また、火災などが発生した場合に慌てずすぐ対処できるよう、消火栓や防火水槽設備の位置や操作方法など、日頃から意識してイメージするように心掛けています。

消防団の魅力は何と言っても“仲間”。共に訓練に励み、大会を通じて達成感や充実感を味わえる喜びは、何物にも代えがたいものがあります。団員同士が気を遣わず刺激し合える関係性も活動を継続できる要素だと思っています。

今後は、有事の際に少しでも機敏に動けるよう地域住民との関係性をより密に持つことを意識して活動していきたいです。



消防車両の警鐘・赤色灯のスイッチを入れ、火災予防広報のためいざ出動

おらほの オーディナリー・ヒーロー



おらほのヒーローたちの
日々の活動や思いを紹介

オーディナリー・アクション

29年2月1日現在、市消防団団員数は818人。防犯隊隊員数は41人、交通指導隊隊員数は32人を数える。各団員、隊員とも日常生活の中で各々任に当たっている。

「万が一」という有事の際の機動も重要な任務だが、それを行うための日頃の訓練や備えがより大事である。そして、さらに必要なことは「万が一」を起こさないための行動。

日々の生活の中に溶け込み活動が展開されているため、目立ちはしないが、一人一人の力が私たちの当たり前の安心・安全な毎日を支えていることは事実だ。当たり前を継続するのは、並大抵なことではない。本ページでは、その尊き活動を日々展開する消防団員、防犯隊・交通指導隊員の中から3人に話を伺った。活動の仕方や対する思いは三者三様だが、根底には皆、まちや地域住民を思う気持ちがある。

団員、隊員。おらほのヒーローたちは、今日も街角で「安心・安全」を支え、守るため、使命感を燃やしている。